

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第13期通常総会

2018年9月24日（月・祝）13:45～15:00

議事次第

於 中目黒アトラスタワー集会室

1. 開会（司会： 理事・櫻博子 ）
2. 理事長挨拶：清水善和
3. 総会成立の確認（報告：奥野玉紀）

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状		
正会員	9	38	23	70
%	12.9%	54.3%	32.9%	100%

4. 議長の選出：議長（ 理事長・清水善和 ）
5. 議事録署名人の選出（ 奥野玉紀 ・ 里見嘉英 ）
6. 議事
 - 6.1. 第1号議案：第13期（2017年7月1日～2018年6月30日）事業報告および収支報告（奥野）
 - 6.2. 第2号議案：第14期（2018年7月1日～2019年6月30日）事業計画および収支予算（奥野）
7. 質疑、意見等
8. 閉会

【総会特別企画】ガラパゴス写真コンテスト2018選考会

応募総数38枚。

小笠原の高校生、およびガラパゴスの高校生も参加。

第13期(2017年7月1日~2018年6月30日)事業報告

第13期の事業報告は、以下のとおりである。

※全ての活動に奥野が関わっているため、「担当」は奥野以外の理事/監事、ボランティアを記載した(敬称略)。

(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業

- ① 「ガラパゴス鳥類ガイド日本語版」制作・輸入・頒布。英語版「Galapagos Bird Guide」のイラストを採用し、鳥類の英名、学名、日本語名をダーウィン研究所の最新リストより引用して記載。英語版を発行しているアメリカの出版社に1000部印刷依頼し輸入した(実数1055部)。当期で341部頒布。ダーウィン研究所に55部寄贈。その他サンプルとして15部頒布。在庫約640部。担当：里見
- ② 「小笠原とガラパゴス」交流事業企画準備(11月)小笠原自然文化研究所(IFO)の理事長堀越夫妻、小笠原村一木議員、環境教育専門家高橋氏の4名が、学生交流事業の下見も兼ねてガラパゴスを訪問。チャールズ・ダーウィン財団(CDF)理事長、ガラパゴス国立公園局(PNG)局長、イサベラ副市長、およびガラパゴス高校の生徒らと面会した。JAGAでは各面会のコーディネーション、情報提供などを行った。CDFにはJAGAから1000ドルの寄附と鳥類ガイド30部の寄贈、またイサベラ島の市庁舎にて、故ハシント・ゴルディージョ氏への感謝状を贈呈。同氏の息子が設立した学校にも1000ドルの寄附を環境教育に、と校長に渡した。担当：波形
- ③ 「ガラパゴス写真コンテスト2017」開催。写真募集期間：6月末~9月下旬。応募作品数33点。選考：総会(9月)特別企画として、参加者の投票にて最優秀賞1点、優秀賞12点、決定。優秀賞に副賞としてエクアドル産チョコレート、およびカレンダー贈呈。
- ④ 「ガラパゴスカレンダー2018」制作・頒布。写真コンテスト優秀賞作品を採用。11月下旬に500部納品、発送開始。寄附の特典として頒布208部、会員配布135部、支援者などへの進呈約100部。残部50部を7月に「ロンサム・ジョージ」ミュージカルグループに贈呈。手元残2部。今年は日エク国交100周年&小笠原返還50周年で、記念行事で多くの方と会い、カレンダーを進呈した。(都知事、環境大臣、大使、さださんなどにも)
- ⑤ 日本エクアドル外交関係樹立100周年記念事業。日本の和楽器グループをガラパゴスに派遣。サンタクルス島のサンフランシスコ公園にて公演(2月5日)。1000人近くの市民が鑑賞し、好評を博した。その後学校でも開催。国際交流基金の助成による。現地との事前連絡、CDFとの協働、ロジの一部手配などを奥野が担った。
- ⑥ 「小笠原とガラパゴス」未来に繋ぐ次世代育成交流事業第1弾(3月2日~20日)：小笠原返還50周年記念事業)ガラパゴスから中高生4名と、チャールズ・ダーウィン財団理事長、および同財団職員1名を招へいし、前半は小笠原に滞在して調査に参加したり、村民と交流したりした。終盤は都内に滞在し、小池都知事、中川環境大臣、バルベリス大使らと面談したり、BESS展示場、国立科学博物館、恩賜上野動物園、経団連自然保護協議会、などを表敬訪問したりした。ボランティア：赤間、飯崎、高木、櫻、※別途報告書あり
- ⑦ 奄美大島訪問3月10日~12日：CDF理事長を奄美大島に招待し、11日に世界遺産シンポジウム参加。シンポ参加者は100名弱だったが、市長ら要人も出席し、プレスも入り、翌日地元新聞一面に。担当：枝松
- ⑧ 「小笠原とガラパゴス」シンポジウム(3月19日)@首都大学東京秋葉原キャンパス 参加者約70名。演者：清水理事長、真板副理事長、アルトゥロ・イスリエタCDF理事長、ガラパゴスの子どもたち4名。ガラパゴスと小笠原の自然管理について、分かりやすく解説し、イスリエタ氏からは現在のガラパゴスの状況と今後のガラパゴスの展望についての話があった。子どもたちは自分たちと自然との関わりについて発表した。JAGA会員で首都大学教授可知直毅先生には場所の提供など、交流プログラム全般でご協力頂いた。
- ⑨ 「ガラパゴスダイビングツアー」企画協力：JAGAスタッフ飯崎さんと水中写真家の方で、島滞在型のダイビングツアーを企画。飯崎さんが手配を担うことで料金を割安にできることが利点だったが、集客できず中止に。
- ⑩ 「小笠原とガラパゴス」未来に繋ぐ次世代育成交流事業第2弾(2018年8月：小笠原返還50周年記念事業)企画・手配・コーディネーション。8月17日~30日、小笠原の中高生5名および付添・通訳の大人3名がガラパゴス諸島を訪問。JAGAボランティアスタッフの赤間さんが通訳として同行する。
- ⑪ ダンスチームAimによるミュージカル「ロンサム・ジョージ」への情報&写真提供。8月11日、12日、さいたま市彩の国劇場にて、300人x4回公演。ガラパゴスの動物たちに扮した出演者たちが、ガラパゴスの生態系での出来事を表現し、最後はジョージが死ぬ物語。100周年記念事業としても認定。出演者に余っていたカレンダーを提供した。演出助手の森田氏はJAGAサポーター会員。

第13期(2017年7月1日~2018年6月30日)事業報告

⑫ 「ガラパゴスと小笠原」展の企画。両所の自然を、科学的な切り口で分かりやすく紹介する企画を、国立科学博物館と協議中。

(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業

- ① NHK 総合「ダーウィンが来た!」、NHK-BS「グレートネイチャー」、民放クイズ番組(日テレ高校生クイズ、テlesh朝ミラクルナインなど)、ドキュメンタリーなど、テレビ番組への写真や情報の提供多数。
- ② 日本テレビ「所さんの目がテン!」およびニュース番組「ZIP!」の取材協力(現地コーディネーター含む)・情報提供など。ダーウィン研究所や保全活動の取材を提案し、3月CDF理事長との面談セッティング。放送はZIP!が7月下旬の1週間榎太一アナウンサーが生中継。「所さん…」は10月7、14、21日、同アナウンサーのナビゲーションで放送予定。9/26収録にも立ち会う予定。またこれに伴う同アナウンサーの「読売中高生新聞(発行部数約7万部)」のコラム原稿の監修も行う(9月発行予定)。担当:波形、飯崎
- ③ 2015年にサンプリングした上野動物園ゾウガメの遺伝子解析結果の論文:筑波大和田洋先生が科学誌に投稿、現在査読中。ミトコンドリアDNAの解析では、太郎はサンタクルス西部種、亀吉はイサベラ島ウォルフ火山種。
- ④ 国立民族学博物館:朝枝利男(日本人で初めてガラパゴスに行った人物)の持ち帰った写真や標本画を民族博物館が保有しており、その数百枚の資料に関する情報提供や判別作業を行う。(作業は2018年9月より)協力:伊藤秀三長崎大学名誉教授、JAGA役員ら
- ⑤ SNSによる情報発信:Facebook、twitterによるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、計180記事を発信した。ボランティアスタッフの飯崎さんも管理者に指定し、投稿してもらったことでタイミング良く発信できるようになった。また、日エク100周年記念のFacebookページへのガラパゴス関連記事の投稿も行った。
- ⑥ メールニュースの発行:第66~69号。情報発信がSNS中心のため、メールマガジンはお知らせ程度になった。
- ⑦ 会報の発行は、人手不足のため発行できなかったが、来期へ向けての話し合いをボランティアスタッフと始めた。
- ⑧ その他、メディアや個別の問い合わせ対応、随時。担当:奥野

(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業

特になし。

(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

1) ガラパゴス・ベルデ(緑のガラパゴス)2050」支援

BESS フォレストクラブと共に支援している、ダーウィン研究所(CDF)の植生回復プロジェクト。当期は、昨期に続き、サンクリストバル島とフロレアナ島において、学生や子どもたちに対する環境教育や人材育成に焦点を当てた活動を支援した。(右写真:植樹する苗と島民・学生ら)



サンクリストバル島では、外来種駆除と島民への啓発を目的に、

CDFの保有する土地にネイティブ・ガーデン(在来種の庭)を作って苗を植えたり、メンテナンスをしたりした。この土地には様々な植物が生育しており、この生態系のベースライン調査を行い、記録を作成。各植物についての説明書を、学生が作った(右図参照)。また区画内に制作予定の自然トレイルのための、清掃や外来種の駆除活動なども学生らで行った。

人口110人ほどのフロレアナ島においては、島の唯一の学校であるアマソナス学校や旧ゴミ捨て場、鉱山、行政府や国立公園支所などの公共施設において、植樹した植物のモニタリング調査を継続して行った。

この島では、自給自足の生活を持続可能な形で支援することを目的に、生態系再生事業と平行して、サステナブル農業の試験的な取り組みも行っている。(右写真:農場にてモニタリング調査を行う学生たち)

プロジェクト「ガラパゴス・ベルデ2050」は、この2島の他、サンタクルス島、バルトラ島、サウスプラサ島などでも植苗を行い、また今後イサベラ島へ拡大する予定で、ガラパゴスの植生回復に大きく寄与している。(複数団体支援による)。



第13期（2017年7月1日～2018年6月30日）事業報告

2) ペンギン調査活動支援

ホシザキ株式会社会長の坂本精志氏、およびペンギン基金からの寄附を受け、チャールズ・ダーウィン研究所が毎年行っているペンギン・コバネウ・アホウドリの海鳥生態調査について、支援を行った。ペンギンの生息数はおよそ 2000 羽、コバネウは 2000～3000 羽、アホウドリは 33000～35000 羽と推計されている。生息地の確認についても行われ、生息数と共に特に大きな変動は見られなかった。海鳥は異常気象などの気候変動に生息数を大きく左右されるため、継続的な調査をすることで、諸島生態系全体の健全性を見ることのできる指標となる。ダーウィン研究所の研究者からは、継続した支援が非常に有り難い、と連絡・報告をもらっている。ペンギン基金の年報に、ガラパゴスペンギンの現状について奥野が寄稿した。



3) イサベラ島環境教育支援

イサベラ島の学校で行われている環境教育へ支援を行った。使途については校長に一任した。同島にはダーウィン研究所の支所ができたため、今後はこの支所を通してコミュニティ支援（島民啓発・環境教育含む）を行っていく。

4) チャールズ・ダーウィン研究所活動全般支援

CDF 理事長に使途を委ねる形で、研究所の運営費に支援を行った。当期、「小笠原とガラパゴス」の交流プログラムでは、小笠原からの一団（大人4名）の歓待や面談の調整、ガラパゴスからの派遣学生の選考やロジ支援、付添などを同研究所で担当した。また2月の和楽器コンサートでの自治体との調整、日本からのマスコミ取材への協力、次期8月の学生受け入れの準備や手配など、こちらから依頼することを同研究所で全て代行してくれた。会員やサポーターからの寄附を贈呈した。

(5)ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

特になし

(6)ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7)ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

3月19日のシンポジウムにおいて、JAGAとチャールズ・ダーウィン財団の、相互協力協定の再締結（更新）のサイン式を行い、2006年以来続く協力協定の再確認を行った。JAGAはCDFの日本窓口として機能し、ガラパゴスの保全のために日本でのファウンドレイジングを行い、CDFの活動を支援する。チャールズ・ダーウィン財団は、JAGAからの意思と寄附を受け、ガラパゴスでの保全活動を提携して行う。

(8)その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■日本エクアドル外交関係樹立100周年記念事業実行委員会の委員として、奥野が活動。大使館や外務省などの公的機関、エクアドル本土で活動する団体や個人、日本で活動するエクアドル関連の団体・企業・個人との繋がりが新たにできた。「小笠原とガラパゴス」の交流事業が記念事業として認定されたことから、環境大臣や都知事、大使などへの面会もスムーズにセティングすることができた。1月31日の記念事業キックオフレセプションパーティには清水理事長、真板副理事長も出席。2018年9月6日のエクアドル大統領来日晩餐会にも招待された。

2月5日のサンタクルス島での和楽器コンサート、そして歌手のさだまささんのガラパゴスの高校でのコンサート（2018年8月31日）も実現した。

■ガラパゴス産フェアトレード・有機栽培コーヒーに関する情報収集・提供事業。サステナブル農業の一環として行われているガラパゴス産コーヒーについて、日本での需要など情報収集。コーヒー専門店より問い合わせあり。

■当期、良品計画株式会社、ニコン株式会社、ヤマハ発動機株式会社、など大手企業に支援を依頼したが、断りの連絡をもらう。引き続き、ガラパゴスの保全支援を企業に働きかける。

■その他ファウンドレイジングのための活動。

【謝意】当期活動したボランティア：赤間亜希&アンドレス・ロセロ、石井惇恵、岡田真希、片野真琴、高木一輝、竹ノ内理絵、飯崎晶子、および事務局長以外の理事・監事全員。（五十音順）

平成29年度(第13期:2017年7月1日~2018年6月30日)活動計算書

特定非営利活動法人日本ガラバゴスの会

科目	金額	備考
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	¥290,000	45名、うち複数年払9名
その他会員/サポーター受取会費	¥404,550	31名、複数年払い2名、学生1名、団体2
計	¥694,550	
2 受取寄付金		
寄付	¥1,675,800	会員など個人より
3 受取民間助成金		
BESSフォレストクラブ	¥2,400,000	前年度入金分・今年度事業分
帝人株式会社	¥100,000	ボランティアサポートプログラム
日エク100周年記念事業補助金	¥50,000	
計	¥2,550,000	
4 事業収入		
普及啓発事業	¥2,130,002	交流事業の共同事業者からの委託金含む
情報提供事業	¥21,600	テレビ番組への写真・情報提供
計	¥2,151,602	
5 その他収益		
受取利息	¥22	銀行利息
経常収益計	¥7,071,974	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) ガラバゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業		
印刷費	¥226,800	カレンダー印刷費/デザイン料
交通費	¥4,466	ボランティア交通費
資料費	¥750	参考書籍代
制作費	¥465,555	鳥類ガイド制作費
通信費	¥113,421	鳥類ガイド輸入送料+関税、カレンダー発送
交流事業費	¥2,270,492	「小笠原とガラバゴス」中高生交流事業
消耗品費	¥13,023	カレンダー発送用文具、封筒など
会議費	¥7,941	セミナー、ボランティア会議会場費等
計	¥3,102,448	
(2) ガラバゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業		
インターネット費	¥12,960	ホームページのサーバー代
調査・資料費	¥14,444	参考資料購入代
計	¥27,404	
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	¥0	
(4) ガラバゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業		
1) ガラバゴス・ベルデ2050	¥2,196,000	植生再生事業(BESSフォレストクラブ支援事業)
2) ペンギン調査費	¥1,051,750	ペンギン、コバネウ、アホウドリ生態調査(ダーウィン研究所)
3) イサベラ島環境教育支援	¥116,580	ハンスト・ゴルディージョ学校支援
4) ダーウィン研究所活動支援	¥116,580	ダーウィン研究所運営資金
計	¥3,480,910	
(5) ガラバゴスに関連する国際協力に係る事業	¥0	
(6) ガラバゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業	¥0	
(7) ガラバゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業	¥0	※ダーウィン研究所への支援については、(4)に算入した
事業費計	¥6,610,762	
2 管理費		
(1) 人件費 事務局人件費	¥450,000	専従職員1名
(2) その他経費		
シェアオフィス利用費	¥97,900	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
通信費	¥63,122	事務局携帯電話契約料、転送通話料、郵送代等
消耗品費	¥24,459	印刷用紙、ラベル、プリンターインク等
事務手続き費	¥10,391	ネットバンク手数料、振込手数料
NPO保険費	¥6,884	ボランティア保険
交通費	¥23,560	事務局交通費(打合せ等)
会議費	¥8,982	総会、理事会会場費等
雑費	¥3,246	コピー代等
管理費計	¥688,544	
経常費用計	¥7,299,306	
当期経常増減額	¥-227,332	
当期正味財産増減額	¥-227,332	
前期繰越正味財産額	¥3,959,809	
次期繰越正味財産額	¥3,732,477	

1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2.事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	(1)環境教育 普及啓発事	(2)情報提供 収集事業	(4)保全支援 事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益						
1.受取会費					694,550	694,550
2.受取寄附金	553,800		1,122,000	1,675,800		1,675,800
3.受取助成金等	150,000		2,400,000	2,550,000		2,550,000
4.事業収益	2,130,002	21,600		2,151,602		2,151,602
5.その他収益				22		22
経常収益計	2,833,802	21,600	3,522,000	6,377,424	694,550	7,071,974
II 経常費用						
(1) 人件費						
現地スタッフ給付金 (保全支援活動)			3,480,910	3,480,910		3,480,910
事務局人件費					450,000	450,000
(2) その他経費						
交流事業費	2,270,492			2,270,492		
通信費	113,421			113,421	63,122	176,543
交通費	4,466			4,466	23,560	28,026
印刷制作費	226,800			226,800		226,800
インターネット費	0	12,960		12,960		12,960
会議費	7,941			7,941	8,982	16,923
制作費	465,555			465,555		
資料費	750	14,444		15,194		15,194
オフィス利用料					97,900	97,900
消耗品・備品費	13,023			13,023	24,459	37,482
NPO保険費					6,884	6,884
手続き費等					10,391	10,391
雑費					3,246	3,246
経常費用計	3,102,448	27,404	3,480,910	6,610,762	688,544	7,299,306
(事業別)当期経常増減額	-268,646	-5,804	41,090	-233,338	6,006	-227,332

3.使途が制約された寄付金等の内訳

使途が制約された寄付金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。

当法人の正味財産は3,732,477円ですが、そのうち使途が制約された財産はありません。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ペンギン寄附金	0	1,050,000	1,050,000	0	篤志家およびペンギン基金からの寄附を受け、全額を対象事業に使用しました。
BESSフォレストクラブ 支援協賛金	0	2,400,000	2,400,000	0	環境保全事業支援協賛金としてBESSフォレストクラブより交付を受けた240万円の全額を、対象事業に使用しました。

4.役員及びその近親者との取引内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	うち、役員及び近親者との取引
(活動計算書) (収益)寄附金	1675800	446000
(費用)管理費 事務局人件費	450000	450000
活動計算書計	2125800	896000

第13期(2017年7月1日～2018年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2018年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	3,766,066	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	2,283,511	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		6,147,477
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
資産合計		6,147,477
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	15,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	2,400,000	
流動負債合計		2,415,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,415,000
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		3,959,809
当期正味財産増減額		-227,332
正味財産合計		3,732,477
負債及び正味財産合計		6,147,477

第13期(2017年7月1日～2018年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計財産目録

2018年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	1,198	
普通預金 みずほ銀行青山支店	1,847,215	
普通預金 三井住友銀行渋谷駅前支店	292,033	
郵便振替口座 ゆうちょ銀行	1,002,210	
ジャパンネット銀行	623,410	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	2,283,511	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		6,147,477
2 固定資産		
土地 所在 m ²	0	
建物 所在 m ²	0	
車両運搬具 乗用車 台	0	
固定資産合計		0
資産合計		6,147,477
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	15,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	2,400,000	
流動負債合計		2,415,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,415,000
正味財産		3,732,477

第14期（2018年7月1日～2019年6月30日）の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

<p>(1) 環境教育・普及啓発事業</p> <p>2018年は、日本エクアドル外交関係樹立100周年、小笠原返還50周年、ガラパゴス世界遺産登録40周年という、記念の年が重なり、多方面で様々な行事が行われ、また計画されている。JAGAでは引き続きこの機会を利用して、ガラパゴスやその保全についてより多くの方に知ってもらえるような事業を積極的に行う。また、同じ世界自然遺産である小笠原諸島とガラパゴスの人的交流や情報交換の機会を多く設け、将来に繋がるような関係の構築に努める。</p> <p>これと関連して、自然管理や観光管理について、ガラパゴスの事例を紹介することで、日本の自然保護や世界自然遺産地域の管理に資する情報を提供する。保全への関心や理解が深まることも期待する。</p> <ul style="list-style-type: none">* ガラパゴスと小笠原の人的交流、情報交換を積極的に行う。小笠原に関する公的機関（国・都・村）などとの連携を密にし、継続した関係構築に努める。* 「ガラパゴスと小笠原」展（国立科学博物館他、教育機関などとの共同事業（予定）。現在複数機関と企画・話し合い進行中。）* 「ガラパゴス写真コンテスト2018」開催、および「ガラパゴスカレンダー2019」制作、発行。ファンドレイジング／普及ツールとしても活用する。* その他、教育機関等での講演、講師の派遣、出版物への原稿執筆や翻訳、監修など随時対応。
<p>(2) 情報収集提供事業</p> <p>ガラパゴスに関する正しい情報を的確に提供する。</p> <ul style="list-style-type: none">* 「ガラパゴス植物図鑑」の制作。伊藤秀三長崎大学名誉教授の協力を得て、ガラパゴスの植物およびその進化に関する一般向けの図鑑を出版する。* ガラパゴスの自然管理および観光管理に関するウェブページの作成：日本のエコツーリズムや環境保全に対する情報提供など、関心やニーズが高い。* インターネットを活用した情報提供に力を入れる。（Facebook やメルマガ、ホームページなど）* 会報発行を再開する。（年2号）* 教育・科学機関、科学番組への協力・監修、マスコミ対応、情報・写真提供など、随時。
<p>(3) 環境問題全般情報収集提供事業</p> <p>特に予定なし。</p>
<p>(4) ガラパゴスの環境保全活動の支援</p> <p>海鳥保全のための生態調査支援、昨年度に引き続きガラパゴス・ベルデ 2050（ネイティブ・ガーデン作りや環境教育を含めた植生保全活動支援）、ダーウィン研究所活動支援を行う。また現地で力を入れている、次世代育成のための環境教育や人材育成事業への支援を行う。</p> <p>経常的な支援に加え、現地のニーズについて随時連絡を取り、必要なところに必要な支援を行う。</p>
<p>(5) 国際協力事業</p> <p>チャールズ・ダーウィン財団と JICA の提携を仲介する。（海水淡水化装置で検討中）</p>
<p>(6) 調査研究支援事業</p> <p>需要があれば、支援を行う。（日本人研究者、大学院生の派遣など）</p>
<p>(7) 現地諸機関の運営支援事業</p> <ul style="list-style-type: none">・チャールズ・ダーウィン財団運営支援：日本企業に自社製品提供などの支援をお願いする。
<p>(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業</p> <ul style="list-style-type: none">・企業への働きかけを強化する。ガラパゴスに進出している日本製品を提供している日本企業、および旅行代理店に対して、保全支援に協力をお願いする。・ガラパゴスに行った旅行者へのアプローチについても検討する。

平成30年度 活動予算書
第14期(2018年7月1日から2019年6月30日まで)

特定非営利活動法人日本ガラバゴスの会

科目	金額	備考
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	300,000	60人
協力会員受取会費	350,000	40人+3団体
計	650,000	
2 受取寄付金		
受取寄付金(個人)	1,600,000	個人、および任意団体
3. 受取民間助成金		
受取民間助成金	2,400,000	BESSフォレストクラブ支援協賛金
その他助成金	100,000	企業協賛金
その他助成金	600,000	日野自動車グリーンファンド(申請中)
計	3,100,000	
4. 事業収益		
普及啓発事業	2,000,000	交流事業受託金
情報提供事業	200,000	テレビ・出版支援事業
計	2,200,000	
5. その他収益		
受取利息	100	銀行利息
経常収益計	7,550,100	
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) ガラバゴスに関する環境教育・普及啓発事業		
印刷費	250,000	カレンダー制作(500部)
交通費	30,000	ボランティアや演者の交通費
通信費	20,000	郵送代
交流事業費	2,000,000	「ガラバゴスと小笠原」若者交流事業
消耗品費	15,000	郵送用品等
会議費	10,000	ボランティア会議会場費等
計	2,325,000	
(2) ガラバゴスに関する情報収集提供事業		
インターネット費	500,000	ホームページ新設(助成金事業)、サーバー代
通信費	20,000	会報等郵送費
資料費	10,000	情報収集のための資料購入費
印刷費	30,000	会報等印刷代(会報2号分)
計	560,000	
(3) 環境問題全般に関する情報収集提供事業		
その他	0	
(4) ガラバゴスにおける環境保全活動の支援事業		
① ペンギン調査費助成	1,000,000	篤志家らの寄附による
② ガラバゴスベルデ2050(植生再生事業)	2,400,000	BESSフォレストクラブとの共同支援事業
③ 環境教育人材育成事業	100,000	会員・サポーターなどからの寄附による
④ ダーウィン研究所運営資金支援	200,000	会員・サポーターなどからの寄附による
計	3,700,000	
(5) ガラバゴスに関する国際協力事業		
その他	0	
(6) ガラバゴスに関する調査研究関連支援事業		
その他	0	
(7) ガラバゴスに関する諸機関の運営支援事業		
その他	0	
(8) 予備費	100,000	緊急支援用等
事業費計	6,685,000	
2. 管理費		
(1) 人件費 事務局人件費	600,000	
(2) その他経費		
シェアオフィス利用費	97,900	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
通信費	60,000	郵送代、電話使用料、など
消耗品費	25,000	コピー用紙、ラベル、インクなど
事務手続き費	10,000	銀行振込手数料等
NPO保険費	10,000	
交通費	20,000	事務局交通費
会議費	20,000	総会・理事会会場費等
雑費	22,200	コピー代、慶弔費など
管理費計	865,100	
経常費用計	7,550,100	
当期正味財産増減額	0	
前期繰越正味財産額	3,732,477	
次期繰越正味財産額	3,732,477	